

Dry Cool tech 日本ノ寝床ヲ除湿セヨ

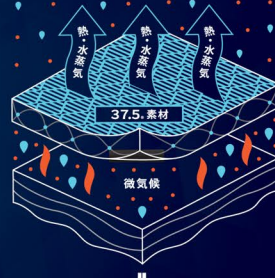
寒い時には暖かく、
暑い時には涼しい。

身体が放出する赤外線エネルギー(IR)を蓄積し、湿気を感じると蒸気を通して身体を冷やし、湿気が感知されない場合は蓄積した赤外線エネルギーで身体を温めます。つまり、寒い時には暖かく、暑い時には涼しく過ごせます。

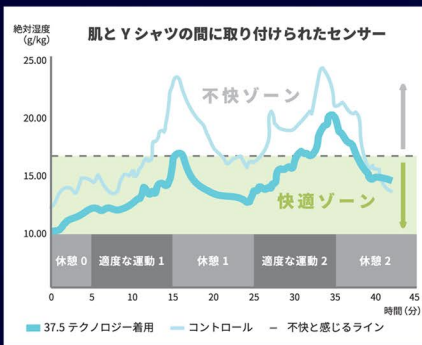


快適な睡眠を持続。

37.5は身体から出る不感蒸泄に素早く反応し、汗になる前に水分をキャッチして拡散させます。寝ている間に排出されるコップ一杯分の水分を調節して整えるため、快適な睡眠が持続します。



快適な時間が長い、湿度が低く回復時間が速い。



	「37.5」を使用した生地	未使用の生地
快適ゾーンの割合	80%	48%
不快に感じるまでの時間	15.15分	12.42分
最高熱指標 (°F/°C)	89°F / 32°C	105°F / 40°C
回復時間	1.05分	8.55分

37.5 テクノロジーを使用した生地と使用していない生地が、どのように人体およびその相対快適値と相互作用するのかを計るため、ミュンヘンにある研究所インサイド・クライメートにて人体の微気候温度と湿度を計測するための実験を行いました。被験者は、37.5 テクノロジーを使用したものと、使用していないYシャツとスーツの上着を着て、休憩と適度な運動を繰り返しました。実験結果によると、二つの衣服条件の内、37.5 テクノロジーを使用した衣服の微気候の絶対湿度は低く、不快と感じるまで時間がかかり、また快適と感じようになるまでの回復時間が短いことが分かりました。最も高い熱指標では、37.5 システムを使用したYシャツとスーツの中の体温は、同システムを使用していないYシャツとスーツの中の体温より、華氏 16度 / 摂氏 8.9度低いことが分かりました。

調湿機能繊維「37.5」は活性粒子(火山性鉱物の活性微粒子)を練りこんだ繊維です。化学加工品ではありませんので洗濯しても脱落しません。

37.5 テクノロジーは、光物理学博士で発明家でもあるグレゴリー・ハックキスト博士が阿蘇山の砂風呂を体験した経験から誕生しました。砂の中に埋められると熱過ぎず快適であることに気づいた博士は、その快適さが熱の上がり下がりするバランスからきていると考えました。火山の砂が皮膚から出る水蒸気を素早く取り除き、汗の蒸発によって継続的に体が冷やされるということです。このことから、汗が液体になる前の水蒸気の段階で取り除くことが快適さの鍵であると考えた博士は、肌に着する蒸気を取り除き水蒸気を最大限に蒸発させ冷却するという研究を進めました。そして、快適さを高めることで中核体温の上昇を低下させ、より快適さを得られることが分かりました。37.5 テクノロジーはこのような経緯により生み出された素材で、博士が体験した砂風呂と似た快適な状態を体験することができます。

